

福岡県立大学の発展と田川地域の活性化

福岡県田川市 福岡県立大学と共に歩む会

設立経緯

平成3年9月、4年制大学の開学をお祝いしようと田川未来塾の呼び掛けに応じた田川市役所、伊田商店街振興組合、田川青年会議所、田川自主婦人大学、田川茶道懇話会などで「福岡県立大学を迎える会」を作り、平成4年の開学歓迎事業を大々的に展開したのが始まりです。

その流れを継続しようと平成5年6月、「福岡県立大学と共に歩む会」を発足、以来様々な事業に取り組んでいます。

福岡県立大学を支援すると共に、住民自らの意識高揚と大学を核とした街づくりを推し進め、かつ県大生の若いエネルギーを分けていただくことを目的としています。

主な事業

①入学式歓迎行事

平成4年の開学時に行った新入生をお迎える花いっぱい事業。28年続いている花一杯運動は3月中旬に地元婦人会などの協力をいいただきながら、プランターに花を植え大学構内に飾り付けを行っています。また学生自治会のみならず、地域住民の協力もいただき、大学からJＲ田川伊田駅間の通学路を一年中花一杯で飾っています。

また入学式では新入生全員に花かごをプレゼント。さらに田川の情報誌、「YOU・遊・マップ たがわく」ともプレゼントしています。



地元の方々の協力もいただき、みんなで花植え



②街灯応援設置運動（街灯応援）

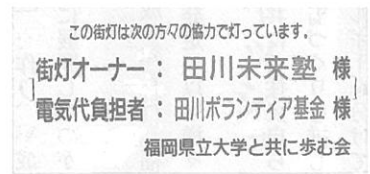
街が暗い、何とかして！の要望を受け、市も区も設置しない街灯を大学周辺に約70灯設置をしました。

市民や企業へ呼び掛け、一口1万円で器具を設置する「街灯オーナー」、街灯の電気代を支援する「一灯会員」を募集し、平成12年12

月末までに街灯オーナー81名、一灯会員77人を得て、約70灯の街灯を設置、以後毎年2、3回、大学自治会の学生さんと共にチェック、切れた電球の取り替えを行っています。22年にわたって展開している「街灯設置運動」は、学生さんの安全だけでなく地域住民の安全をも見守り続けています。

平成13年8月、TVQ「クイズとこころ変われば」で田川街灯設置運動の取材を受け、「田舎の町のオーナー制度とは何のオーナーでしよ〜？」で全国放送、岡田眞澄・酒井和歌子さんチームが難産の末、正解を当てました。平成17年12月、財団法人九州地域産業活性化センター（会長 大野 茂 殿）より補助金をいただき「福岡県立大学生涯福祉センター」の屋上にソーラー発電機を設置、売電して電気代の確保に努めています。

球換えの後は学生さんたちとご苦労さん



一本一本の電柱に取り付けたオーナーのプレート

会、この楽しみで事業は持っているかも・・・。

③YOU・遊・マップ・たがわ〜るど

県外からの学生さんが多いため、平成7年から学生さんにもっと田川「三」を満喫し、田川を楽しんでほしいと、美味しくてボリューム満点の飲食店や観光スポットや公共施設・名勝旧跡を紹介する情報誌「YOU・遊・マップ・たがわ〜るど」を作り、その後5年ごとの改定をしながら25年間新入生に贈り続けています。現在第6版の制作中。コロナ禍の下、広告が集まらず難儀していますが、4月の入学式には新入生にお配りしたいと頑張っています。

学生さんたちも編集委員として「味試し」に行ったりして結構楽しく取材をしています。この「YOU・遊・マップ」は学生さんへの情報提供のみならず、住民や観光客への



YOU・遊・マップ・たがわ〜るど 2017

地域再発見の役割を果たし始めています。

平成24年、お店のインターネット検索を可能にしました。5年ごとの発行では変化の早いお店の現状に付いて行けず、インターネット版を作り変化に対応しています。

こちらのアドレスにお立ち寄りください。
<http://yuyumap.sa-ba.jp>。PDF版は、田川未来塾ホームページ <http://mirai.sa-ba.jp/> に掲載しております。

④大学・住民交流会

大学と地域住民の交流会を年1回開催しています。教職員、学生、留学生と住民の交流のきっかけ作りを努めており、そのご縁で様々な事業が展開されるようになりました。ロータリークラブ、商工会議所、行政などの参加が増え、大学との地域連携や広範な交流が生まれつつあります。

⑤留学生支援

南京師範大学、大邱韓医大、ソウル三育大学、吉林大學珠海学院の留学生を応援させていたいただいております。

平成29年10月、5回目の南京師範大学交流訪問（5年ごと）、また令和元年6月、「香港デモ」の最中ではありましたが吉林大學珠海学院を訪問しました。派遣元の先生方との交流は信頼関係を生む上で大切なことと感じておりま



2006年7月、天神直行バス運行開始



大学住民交流会

様々な事業を継続すると共に、20年近く取り組んでいる留学生支援の今後のあり方や新たな国際的な社会状況への対応を模索し始めています。

留学生は最初の頃は3人くらいでしたが最近では4大学15名くらいに増え、一昨年は20名を超え支援財政が厳しくなりました。本会の組織強化の必要があります。

新しい移民の時代を感じながら、私たちは福岡県立大学で学んでいる留学生さんや町でちらほら見受けられる外国人（労働者？）の

今後の方向

す。ただ残念ですが今留学生は0人！そこで、余裕のできた留学生資金で昨年末、南京師範大学と留学生が教師になっている常州大学に文学全集約300冊をXmasプレゼントとして送り、両大学から大変喜ばれました。

特に南京師範大学には24年前から5回訪問しており、その都度日本の本を皆で抱えて行っております。師範大に「共に歩む会文庫」が出来ています。今年は6回目ですが、コロナは・・・5年ごとの定点観測での街の激変には目を見張るものがあります。

その他、ビール列車、夕涼み会、Xmas Party等を開催し、定例会と発足以来毎月の会報発行（現在314号）を行っております。

田川が石炭で栄えた昭和初期、アジアを中心とした外国の方々の労働なくしてはこの繁栄はなかったのは歴史の事実です。そのお返しにもなるかもしれない「田川国際交流協会」の設立を、田川各種団体や企業の皆様と共に模索して参りたいと考えております。

後継者不足の中で初心貫徹、30周年への本会の力量試しの時でもあります。

（福岡県立大学と共に歩む会
副会長 植木康太）

「田川にいらっしやる外国人実態調査」から

●困ったとき誰かに相談したか

相談した	8	21%
相談しなかった	31	79%
計	39	100%

●なぜ相談しませんでしたか？

相談しても仕方ない	8	38%
他人を頼りたくない・頼れない	2	25%
自分で解決できる	1	13%
相談する場がない	1	13%
考えたくない	1	13%
計	8	100%

「田川にいらっしやる外国人実態調査」から